

東京バッハ合唱団 月報

[第 697 号] 2020 年 7 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 697

July 2020

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

第 119 回定期演奏会 (12 月 6 日、三鷹・風のホール)

2020 年の、たった一つの公演？

大村 恵美子 (主宰者)

少し前までは、2 回目の東京オリンピック、ということ “2020 年” という年がクローズアップされていたのですが、コロナ禍のせいで、あえなくその話題も消えてしまいました。一步先のことは、まるで分からず、3 月、4 月、5 月と、3 か月間も合唱団の活動はストップし、やっと 6 月 6 日に、密を避けるため 1 声部ずつのパート練習の形で、再開を果たしたところ (初日は T、以下、毎週土曜日ごとに B、S、A の順で一巡。7 月は 2 声部ずつ、第 1 週から土曜ごと、AT、SB、ST、AB の順で一巡の予定)。少しでも早く 4 つの声部がそろって練習できるようになることを、祈るばかりです。

既報のとおり、この夏の公演予定 (7 月: 都内 2 教会、8 月: 長野県下 3 会場) は、すべて来年まで延期とさせていただきます。というわけで、私たちの次の公演は、

◆ 第 119 回定期演奏会

[日時] 2020 年 12 月 6 日 (日)、午後 7 時開演

[会場] 三鷹市芸術文化センター・風のホール

[曲目] カンタータ第 110 番《喜び 笑い あふれ》、
《クリスマス・オラトリオ》第 1~3 部 (全曲)

[独唱] 光野孝子 (ソプラノ)、野間 愛 (アルト)、
平良栄一 (テノール)、山本悠尋 (バス)

[演奏] A R S コレギウム・アルモニア・スペリオール・
ジャパン (オーケストラ)、中澤未帆 (オルガン)、
大村恵美子 (指揮)

を確保して実現を期していますが、それも、コロナの収束状況如何にかかっている、全く初めての事態を過ごしています。

* * *

この第 119 回定期演奏会を準備することが、目下の私たちの課題なので、ここでは、そのことについて書くことにいたします。

ちょうどこの時期に、また新しいひとつのニュースとして、1994 年に私が出版した『バッハの音楽的宇宙』

月報 2020 年 7 月号 CONTENTS

- ・会場練習自粛中に思ったこと (林 貞敬) …p. 2
- ・創立 60 周年を、再来年に控えて (大村健二) …p. 3
- ・[事務局だより] コロナ家居で、この際、片づけ…p. 4

(丸善ライブラリー) が、電子書籍という形で、丸善出版から発売されることになりました。著者の私も、いまだに具体的な出来上がりを目にはしていないのですが、先の月報 (第 695 号・2020 年 5 月) には予告しておきました。[コロナ対処で遅れたようですが、すでに発売になりました。下欄に広告]

以前の新書判と内容は変わっていないので、その中から、今年の 12 月 6 日演奏予定の BWV 110 と BWV 248 《クリスマス・オラトリオ》の解説文を紹介してみよう。

『バッハの音楽的宇宙』は、次のような分類による 71 曲のバッハ音楽作品から成っています。

1. 歴史

世界・自然 BWV 106, 182, 46, 26, 18, 31, 76, 1, 6 (9 曲)

社会・経済・貧富・階層 BWV 156, 163, 75, 10, 243, 39 (6 曲)

挫折と勇気 BWV 131, 12, 21, 199, 38, 56, 228, 226 (8 曲)

2. 生活

安定-保守 BWV 84, 82, 85, 151, 42 (5 曲)

動-変化-革新 BWV 70, 90, 140, 132, 36, 110, 172 (7 曲)

3. 国家・政治

王権と民権・戦争と平和 BWV 71, 208, 215, 80, 79, 67, 116, 19, 158, 104 (10 曲)

都市と農村・家族 BWV 211, 212, 150, 196, 187, 190 (6 曲)

4. 宗教

道徳 BWV 45, 24, 147 (3 曲)

心と身体 BWV 23, 78, 8, 156 (4 曲)

生と死 BWV 4, 229, 245, 244 (4 曲)

人間と神 BWV 68, 227, 100, 29, 248 (5 曲)

個と普遍 BWV 65, 51, 225, 232 (4 曲)

(計 71 曲、■: 当該曲)

大村恵美子・著『バッハの音楽的宇宙』

電子書籍版 (丸善出版) 発売中

価格: 1000 円 + 消費税

・丸善雄松堂……Knowledge Worker (ebooks):

<https://kw.maruzen.co.jp/ims/itemDetail.html?itmCd=1031850234>

・大学生協……Varsitywave eBooks:

<https://coop-ebook.jp/asp/ShowSeriesDetail.do?seriesId=MBIS-371727>

《喜び 笑い あふれ》BWV 110

1725年、バッハ40歳のクリスマス作。「笑い、われらの口に満ち、讃美はわれらの舌に満ちよ。主は我らの上に大なる事をなしたもうたのだから」(詩編126; 2, 3による)。これは豪快な動きに満ちたクリスマス音楽である。《管弦楽組曲・第4番》BWV 1069の序曲から転用された、雄大な序奏部から、8分の9拍子で走り出す、笑いが止まらないようなジグ風の合唱。トランペット3、ティンパニ、フルート2、オーボエ3、ファゴット、弦合奏という壮麗さで、エンドレスな躍動を展開し、ついには、冒頭の序奏部に立ち戻って、地にあるわれら人間の大歓声が、天にある天使の合奏に和する形でしめくられる。全く力強い運動に貫かれた作品である。

(丸善ライブラリー『バッハの音楽的宇宙』p. 44)

《クリスマス・オラトリオ》BWV 248

前に、キリスト教のわかり易さは、神が人間の歴史の中に現れて、見える形を示したとされることであると述べた。イエスの生涯の最後は、記録に残されていて、それを神の子と解するか否かに関わりなく、信憑性のある史実として開かれているが、それにひきかえ、ユダヤの片田舎の寒村に生を受けた、イエスの生涯の始まりについては、記録が残されるほうがおかしい。降誕物語が、後代のドキュメントや周辺諸国の神の子伝説の寄せ集めであったとしても、それはそれでほほ笑ましい人間のわざではあるまいか。ただそれらの背後に、人間理解を越える契機によって、神の人間世界への参入が行われたことの象徴的意味が担われていることを思って、降誕物語を味わい、楽しむことが、バッハの《クリスマス・オラトリオ》に対する私たちの関わり方でもあるように思われる。(同上 p. 122)

* * *

万が一でも、年末のこの公演がキャンセルなどということになれば、この“2020年”という年は、一つの公演も行えなかった年になってしまいます。そんなことのないように祈りますが、どんな推移になるのか、「神のみわざ」は、測り知れません。

カンタータ第110番の冒頭合唱は、

喜び 笑い あふれ

口は 讃美に満ち

主 いま 大なるみわざ 為せり

と歌います。どんな事態になろうが、“喜び”を忘れないでいたいものです。

因みに、この110番の終結コラール(第7曲)の歌詞(大村恵美子訳)は、

アレルヤ アレルヤ

たたえよ 心のかぎり 歌えよ

主は いま為したもう

とわの 喜びのみわざ

カスパー・フューガー(1592)第5節であり、予定された当夜のステージ閉幕の曲、《クリスマス・オラトリオ》第3部の最終コラール(第35曲)の歌詞は、

喜べ み神は

いまこそ 人となり 生まれたまいぬ

われらが 主 キリスト

ダビデの町より 出でたもう

クリストフ・ルンゲ(1653)第4節で、みごとに“喜び”で完結するのです。しかも、印象深いことには、上記のコラール作者K. フューガーの同じ旋律(Wir Christenleut)によって!

会場練習自粛中に思ったこと

林 貞敬(団員)

東京バッハ合唱団2020年夏の予定(7月の2つの教会演奏会と第58回創立記念日祝賀会、8月の野尻湖合宿と巡演コンサート)が、COVID-19の影響で中止になってしまった事は残念である。

私の東京バッハ合唱団での演奏旅行への参加は、入団した翌年、2015年8月22日に行われた福島県・南相馬市での第112回定期演奏会(3.11被災地訪問演奏)からであった。その翌年、野尻湖合宿のプログラムに組み込まれたワークショップと、それに伴って編成された“2016野尻湖祝祭合唱団”の演奏会が印象的である。

野尻湖合宿関連では、湖畔の神山教会での伝統ある演奏会と信濃町公民館野尻湖支館での祝祭合唱団の演奏会に加え、2018年からは小布施町での演奏会が加えられるようになった。これらの演奏会をこなすことはスケジュール的には忙しいが、団員である私にとっては、夏の大変楽しい演奏会となった。長野県北部までわざわざ出向いて行くことによってはじめて得られる、さわやかな風土の中で行われる、これらの演奏会をこなす充実感、信州ならではの感覚である。

今年2020年の夏には野尻湖と小布施に加え、軽井沢の教会での演奏会が行われることが決まっております、段取りが進んでいた。COVID-19のために今年は開催できなかったが、感染拡大がおさまるめどがついた段階で、改めて実現されることであろう。予定では3か所で演奏会をすることになり、団員にとっては大イベントである。私は東京バッハ合唱団の欧州演奏旅行には参加することが出来なかったが、南相馬以降の国内演奏旅行にはすべて参加することができた。地方での演奏会は大きな楽しみであり、誇りでもある。

COVID-19で合唱団としての会場練習も自粛されることになったが、私はこの間、料理をしながらもっ

ら、ステレオで古楽を聴くことに時間を費やした。海外の有名な演奏家・合唱団のハーモニー（和声）は本当に素晴らしいと思う。これは古楽を生みだした風土が身につけているからであるのかもしれない。

先日、古楽研究家の皆川達夫氏が亡くなった。ラジオで、皆川氏がかつて、自分の率いる合唱団の理想としている演奏について語った録音と、その演奏が流された。グレゴリオ聖歌において、ハーモニーが形成されたとき、倍音において心地よい特殊な和声が発生するという。これは、合唱という行為に実際にかかわるものだけが実感することのできるものと思われる。

私も東京バッハ合唱団の練習の時に、このことを体感することがよくある。多くの音楽愛好家の中にはこのようなことに関心のない方もおられる。倍音まで感じられるハーモニーを、東京バッハ合唱団の合唱の中で実現したいものである。COVID-19 で会場練習が自粛される中で、こんなことを思っていた。

創立 60 周年を 再来年に控えて

大村 健二（団員）

東京バッハ合唱団は、1962 年 7 月 1 日の創立です。例年ですと、この記念日の前後で、練習場での小さなコンサートや講演会、バザー、懇親会などを企画し、後援会員やお客様をお招きして、にぎやかに創立を祝ってきました。

今年は、しかし、様子が違います。人が集まって、派手なことはしづらいのです。誰に命じられたことでもないのに、やるべきなのですが、7 月某日の土曜日、荻窪教会でパッとやります、仕込んでおいたカンタータを歌い、終わったら駅前の中野店あたりで飲んで騒ぎます、どうぞお集まりください、とはとても言い出せません。

何十年か前にもこんな空気を感じたことがありました。昭和天皇の“下血さわぎ”です。あのときは、歌舞音曲は慎みましょう、TV コマーシャルも控え目に、などと誰が云い出すでもなく、世の中が静まりかえったなかで、学園祭まで自粛するなんて、とんでもない、実施しましょう、と表明した某大学の学長さんが右翼に脅されました。今回は、マスクをつけない外出は白い眼で見られます。自粛警察なるものまで跋扈したようです。それも、こんどは“経済を回すべし”と大号令が出ると、熱中症になるといけないからマスクを外せ、2 メートル離れて酒を飲み、県を越えて観光せよ、となった。そんな“同調圧力”醸成の主犯は、あのときも今度もTV や新聞です。日本は民度が低いのですから、マスコミ関係のみなさんには気をつけていただかなければいけません。

さて、八つ当たりはここまでにして、まともな年であれば、今年は創立 58 周年のお祝いをして、節目の



▲創立 60 周年ロゴ（案）、こんなの如何ですか？

60 周年が近づきました、と声をかけあうころだったはずです。

60 周年、お目でたい年回りです。

声楽家の佐々木正利氏は、かつて 40 周年にあたり、“銀字塔”と讃えてくださいました。“金字塔”は 50 周年にとっておきましょう、という心でした。無事、黄金の塔も立ち、そして次なる節目が還暦です。何色の塔が建つのでしょうか。

創立 60 周年記念企画の準備会が発足する夢をみましました。とにかく、当合唱団、控えめな方々ばかりなので、広報・宣伝活動が苦手でした。が、こんどはそうも言ってられません。無理がないよう、早やめに準備をスタートさせましょう。

第 1 に、顕彰に力を入れること。「顕彰」とは、世間から見つけてもらうものと思っていられしやる方が多いかもしれませんが、間違いです。「顕現（エピファニー）」同様、自ずと光るもの。こんなに素晴らしい活動をしています、こんな貴重な実績を残しました、日本の文化に多大な貢献です……と、世間に気づかせる努力は、自分でしなければなりません。「アドヴォカシー」といって、アートマネジメントの重要な要素です。ちなみに「アドヴォカト」は弁護士のこと、正しさは主張しなければいけません。

思いつく方法は、外圧の利用です。ドイツ大使館に働きかけて、ドイツ政府の〇〇勲章に推挙させます。リング氏などがご存命のうちに推薦状を届けていただきます（内容は当方で書くものです）。ブライトコプフ社の社長からも。

それと並行して、日本のさまざまな顕彰機関のことも研究して、働きかけましょう。この作業をとおして、「バッハの日本語演奏」というコンセプトも、さらに磨き上げられていくはずです。

これまでは「記念文集」が定番でしたが、これは相当なエネルギーを消費しました。その替り、60 年間の資料集成の完成版ということで如何でしょう？ 主宰者には、力のこもった一文を寄せてもらいましょう。

その他、その他、就任すべき委員のみなさんのアイディアに期待します。

<事務局だより>

コロナ家居で、この際、片づけ

コロナ下の外出自粛で家の片づけをした、という話はよく聞きました。当事務局でも、ふだん出来なかった整理をいくつか実行しました。

まずは、180センチ幅スチール書類棚の最上段を占めていた、カフェハウス・バッハ時代（1975年開店-1989年閉店）のLPレコードを処分しました。すべてバッハ作品、買取業者が持って行ったもの、303枚、4500円也。残ったレコードは少しずつ、燃えるごみの日に出し終わりました。古いオーディオ装置一式は0円でしたが、小さな本棚が一つ空きました。

目下作業中なのが、オーケストラパート譜の整理です。これまでの58年間に上演した作品の楽譜群が、1曲ずつ大型封筒に分類されて、2棹の洋服ダンスの上に危なっかしく積み重なっていますが、それを、A3判大の段ボール箱（年寄りでも上げ下ろしできる程度の重さを考慮し、高さ12センチで、業者に30箱オーダーしました）に数曲ずつ収めて、3箱重ね、レコードが消えた上述の空間に、BWV順に並べる予定です。ここだけでカンタータ200曲の半分くらいはこなせる計算になります（当然ながら、未演作品のパート譜は存在しませんので）。溢れた分は、床に積み上げるか(?)。BWV75など、3回、4回と再演した曲は、各パート譜のコピーなども増えて、大封筒の厚さがなんと5、6センチにもなっていますので、どうなることでしょう。

書棚の上の壁面に忘れられていた額縁も、降ろして塵を払いました。一つ（下図）は、古い木版画で、マイン河沿いの大学都市ヴェルツブルクの俯瞰図（Herbipolis Würzburg, 90センチ×30センチ）、カフェハウス・バッハの開店記念に、後援会の古澤澄子氏から頂いたもの。古澤さんは、たしか都留重人氏の妹さんだったと記憶しています。ご子息の古澤渉氏は当時テノール団員、現在はチェリストとして活躍中。「バッハの故地ではありませんが」と言っていたらっしゃいましたが、バッハ時代の中部ドイツの典型的な景観であり、小生の17、8世紀ドイツのイメージの祖型の一つとなりました。16世紀の彫刻家リーメンシュナイダー活躍の地。

* *

もう一つが、羊皮紙のネウマ譜です（右段上図、30センチ×41センチ、表と裏）。これも開店祝いに、故・市田儀一郎氏から戴いたもので、爾来45年、そもそもこれは何か、どこで使われていたのか、どんな意味で、



どう歌うのか……、とずっと気にかかっていたはいましたが、これまたこの閑暇に煤払いをして、ネウマについて、ほんの少しだけ勉強してみました。バッハ音楽にいたる重要な階梯です。

チョー大雑把にいうと、楽譜というものをもたなかった古代のキリスト教会では、口伝えによって賛歌や詩編などを歌いつぎ、聖書を旋律的に朗唱しつづけてきましたが、やがてテキストの各音節上に、音の上下や抑揚の動きを模した記号を添えて、記憶の補助とするようになりました。この記号をネウマ（ギリシャ語で「合図」とか「身振り」の意）と称します。13世紀ごろに至って、4本の譜線上に、各音節に対応する■や◆、その他の記号をおいて、音高や旋律の動きを“見える化”する「四線ネウマ譜」の時代となり、グレゴリオ聖歌をはじめとした、ラテン語による音楽空間の黄金時代が到来しました。

ここに掲げたものは「五線ネウマ譜」です。ルネサンス期にかけてポリフォニー（多声）音楽の盛況を迎えると、広い声域に対応するよう線が1本ふえました。われわれが使っている五線譜へと移行する最後の段階でしょうか。時期的には、古いものではないようです。上掲左のページ（右肩に101という頁番号）の裏面が右ページです。テキストは「最初の殉教者、聖ステファノの祝日」（12月26日）のミサ聖祭の入祭唱として朗唱される典礼文の一部でした。この入祭文の全体は、詩編119編の聖句が編集されたものですが、掲載部分のみを抜き書きします（コンマ・ピリオド追加）。

[左] (ad)iuva me, Domine, Deus meus, quia servus tuus exercebatur in tuis iustifi-（わたしをお助けください、主なるわが神、あなたの僕はあなたの掟にのみ心を砕いています：詩篇119編23節後半・新共同訳）。[右] cationibus. **B**eati immaculati in via: qui ambulant in lege Domini. Gl(ori)a（いかに幸いなことでしょう、まったき道を踏み、主の律法に歩む人は：詩篇119編1節・新共同訳。グローリア）

ようやく、これが何で、どんな意味？まで辿りつきました。市田さんは、セーナ河畔のブキストで買った、と仰ってましたので、出所はノートルダム天井裏あたりでしょう。どう歌うのか、が残ってます。昂君、挑戦してみませんか？(K)